

令和7年国語科評価規準 第1学年

1年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	はるが きた 2時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。（思・判・表A(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	1～2	1 P0-3の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。 2 P4-7の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話し 3 P8を教師に合わせて声に出す。想像したこと等を話す。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。（A(1)オ） 【態】進んで友達の話に関心を持ち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
4月	さあ はじめよう			
	おはなし ききたいな 2時間（読②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	1 2	1 教科書の絵を見て、読み聞かせをしてもらった体験を想起し、自分の好きな本を発表する。 2 教科書で紹介されている本の読み聞かせを聞き、感想を発表する。 3 教師の選んだ本や、読んでもらいたい作品を選んで、読んでもらう。 4 読み聞かせを聞いて、本や作品の内容について感想を発表する。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読
	なんて いおうかな 2時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しくことや、場に応じた挨拶に関わる題材（道徳）	1～2	1 P12-13の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面なのか出し合う。 2 それぞれの場面に合った言葉や動作を考えてやり取りしたり、発表したりする。 ・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） 【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
	かく こと たのしいな 1時間（知・技①） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。（知・技(3)ウ） ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方（書写）	1	1 P14の唱え歌を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方を知る。 2 P15の唱え歌を唱えながら、正しい姿勢を知る。 3 正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気をつけてP14-15の挿絵をなぞる。 4 一画の平仮名「く」「つ」を書く。 5 ワークシートを使って練習する。	【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。（(3)ウ） 【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。
	どうぞ よろしく 3時間（話・聞②、書①） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材（生活科） ☆好きなものの絵を描く活動（図画工	1 2 3	1 P16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。 2 「い・ち」と組や自分の名前を平仮名で書く。 ・姿勢や鉛筆の持ち方を唱え歌で確認しながらP17に自分の名前を書く。 ・分からない文字は、教師にきく。 3 名前カードを書く。 ・カードに自分の名前を丁寧に書く。（好きなものの絵等を描いてもよい。） 4 名前カードを見せ合い、交流する。 ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
	こんな もの みつけたよ 2時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検（生活科）	1～2	1 校内で見つけたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描く。 2 絵を使って、自分が見たことや見て思ったことを友達に紹介する。 ・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。

1 年上卷

- 2 -

令和7年国語科評価規準 第1学年 1年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	【知・技】好きな本や雑誌について調べたり、書評を書いたりする活動（図書館活用）		3 読みたい本を選んで、読書に親しむ。	
5月	かきと かぎ 2時間（知・技②） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）	1～2	1 P40の唱え歌を、いろいろな言い方で楽しく読み、濁音に気づく。 2 P41にある単語を、一語一語唱えながら濁音の有無を確認する。 ・清音と濁音の平仮名をノートに書く。 3 濁音を含む単語を見つけてノートに書く。 4 短い唱え歌を作って、まとめをする。	【知・技】平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。
5月	ぶんを つくろう 4時間（書④） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■主語と述語を意識して文を書く。	1～2 3～4	1 P42の挿絵を見ながら、二つの文を読む。 ・主語や述語に注意し、「――が――。」「――は――。」「――は――。」の文型であることに気づく。 ・主語・述語・句点を意識して、P42の文を視写する。 2 P43の挿絵を見て、「――が――。」「――は――。」の文で表し、ノートに書く。 3 日常生活から、「――が――。」の文をノートに書く。	【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。（(1)ウ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
5月	ねこと ねっこ 2時間（書②） ◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P44の唱え歌をいろいろな言い方で楽しく読み、促音に気づく。 2 P45を見て、一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。 3 P45を見て、促音のある言葉とない言葉を比べながらノートに書く。 4 促音や濁音のある言葉と助詞「を」を使って、簡単な文を書く。	【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	わけを はなそう 2時間（話・聞②） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■自分の考えとそのわけを話す。 ☆わけを説明する題材（生活科・算数）	1 2	1 質問に対して、答えとその理由を伝える言い方を確認する。 ・P47の挿絵を見ながら、質問する人と答える人の二人組になって、P46のやり取りを声に出して読む。 2 P47の挿絵を見ながら、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。 3 小学校の生活等で好きなことや楽しみなことを、学んだ話型を使って話す。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） 【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
6月	おばさんと おばあさん 2時間（書②） ◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■長音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P48の唱え歌をリズムに気をつけて読む。 ・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。 2 P49の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 長音のある言葉を集めてノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 長音のある言葉を使って文を書く。 ・「――へ――。」という助詞「へ」を使った文を書く。	【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	あいうえおで あそぼう 3時間（知・技③） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ■言葉遊び歌を楽しむ。	1 2 3	1 P50-51の言葉遊び歌を読む。 ・調子のよい言葉のリズムに気づき、節を付けて歌うように読む。 ・何度も読んで、言葉遊びの歌の仕組みに気づく。 2 自分たちで「あいうえおで あそぼう」を作る。 ・P50-51の吹き出しやP129-131の平仮名表を参照する。 3 P52-53の五十音表を読む。 ・口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気をつけて読んだりする。 ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさで読んだりする。 ・P52-53の「しりとる」を参考にして、しりとる遊びを楽しむ。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

令和7年国語科評価規準 第1学年

1年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
6月	つぼみ 8時間（知・技②、読⑥） ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材（道徳） ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つける活動（図書館活用）	1 2～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・花やつぼみについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ・P54の写真を見て、三つのつぼみからそれぞれどんな花が咲くかを予想して絵に描いてみる。 ・教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。 2 全文を読み、内容の大体を捉える。 ・本文と写真とを対応させながら、3種類の花のつぼみについて取り上げられていることを確かめる。 ・それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。 ・「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。 3 いちばん興味をもったつぼみについて、わけとともに伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。（C(1)ウ） 【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。
6月	おもちゃと おもちゃ 2時間（書②） ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■拗音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P62の唱歌をリズムに気をつけて読み、「おもちゃ」と「おもちゃ」の言葉の違いに気づく。 2 P63の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 拗音のある言葉を集めて、ノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 拗音のある言葉を使って文を書く。 ・語と語の続き方に気をつけて文を書く。	【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	おおきく なった 4時間（書④） ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動（生活科） ☆観察時に写真を撮影（ICT活用）	1 2～3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認する。 2 どんな観点で観察したいかを出し合う。 ・出したものとP64の観点を合わせて整理し、クラス全体で共有する。 3 観察記録の書き方を知る。 ・P64-65の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つける。 4 観察記録を書く。 ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。 ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。 ・P124を参考に、横書きのカードの書き方を知り、生活科の学習にもいかす。 5 書いたものを友達と交流する。 ・交流しながら、友達の観点や書き方との共通点・相違点に気づく。 6 学習を振り返る。 ・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることを確かめる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア） 【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
6月	おおきな かぶ 6時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材（道徳） ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	1～3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて、内容の大体を捉える。 ・P76-77を見て、これからの学習に意欲をもつ。 2 お話の設定と展開を捉える。 ・登場人物と増えていく順序を確かめる。 ・繰り返しの言葉や副詞に着目して読む。 ・繰り返しの面白さやリズムを楽しんで音読する。 3 グループで役を決めて登場人物になりきって音読する。 ・動作やせりふを考えて楽しむ。 4 登場人物になりきって劇遊びをする。 ・グループ内で互いのよさや改善点を助言し合いながら練習する。 5 音読や劇の発表をする。 6 学習の振り返りをする。 ・繰り返しや言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
7月	はをへを つかおう 3時間（書③） ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)カ）	1	1 P78の唱歌を、リズムに気をつけて読む。 ・教師の範読を聞いてから、いろいろな読み方で繰り返し音読する。 ・「は」「を」「へ」の読み方に注意する。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。

1 年上卷

- 5 -

令和7年国語科評価規準 第1学年

1年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	書に親しむ。 ☆好きな本を見つれたり、司書の方にかいたりする活動（図書館活用）		3 本を読み終わったら、P95を参考にして、読書記録をつける。	
9月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。			
	こえを あわせて よもう 2時間（読②） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を音読する。 ☆好きな詩を探して読む活動の継続（図書館活用）	1 2	1 詩を声に出して読む。 ・リズムを感じながら元気に読む。 ・声の大きさ、速さ、読む人数などを変えて読む。 2 詩の様子を想像したり、音読して気づいたりしたことを話し合う。 3 工夫して音読する。 ・内容から想像したり感じたりしたことを、自分なりの読み方で読んで音読を楽しむ。 4 指導書付録C Dを開き、「いちねんせいのうた」を歌う。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	みんなに しらせよう 2時間（話・聞②） ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■知らせたい内容を聞き合う。 ☆話の内容を補うために、端末で撮影した写真などを共有（ICT活用）	1 2	1 P98を見て、夏休みの経験を話す際の具体的なイメージをもつ。 2 夏休みの出来事を思い出して題材を決める。 3 知らせたいことの内容を考える。 ・P98を参考に、内容や話し方を考えて練習する。 ・視覚に訴えられるよう、写真や絵を用意して発表のしかたを知る。 ・みんなが聞きやすい話し方（声の大きさや速さ）を考える。 ・P98の挿絵を参考に、集中して聞くことを確かめる。 5 夏休みの経験を発表して聞き合う。 ・伝えたいことを工夫して話す。 ・友達が知らせたい内容を聞き取り、質問や感想を伝える。 6 学習を振り返る。	【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ） 【態】積極的に友達の話を聞き、これまでの学習をいかして質問や感想を述べようとしている。
	ことばを みつけよう 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■みんなで言葉遊びをする。	1 2	1 P100-101の表を見て、縦、横、斜めに隠れている言葉を見つける。 ・見つけた言葉をノートに書き、発表する。 2 自分で問題を作り、友達と出し合って楽しむ。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。
9月	おはなしを たのしもう			
	やくそく 8時間（読⑧） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材（道徳）	1 2～6 7～8	1 学習の見直しをもつ。 ・「やくそく」という題名から、連想することや自分の経験等を出し合って、お話に関心をもつ。 ・「おはなしのすきなところをみつけて、こえにだしてよもう」という学習課題をたてよう。 2 教師の範読を聞いて、感想を発表する。 3 教材文を読み、内容を捉える。 ・題名と作者、登場人物を確認する。（P109で「さくしゃ」という言葉を知る。） ・登場人物の言動を押さえながら、お話の展開を整理する。 ・3匹のその後を想像して伝え合い、お話の余韻を楽しむ。 4 グループで場面を選んで、音読する。 ・音読したい場面を選ぶ。 ・場面の様子を想像し、3匹の「あおむし」や「木」になりきって役割読みをする。 ・グループの音読を聞き合って感想を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見直しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。
9月	かたかなを みつけよう 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	1 2	1 片仮名を書く。 ・P110の唱え歌を音読し、その中から片仮名を見つけてノートに書く。 ・P111で、片仮名の長音、拗音、促音、濁音の書き方を確かめる。 2 身の回りから片仮名で書く言葉を探す。 ・探した言葉を、長音、拗音、促音、濁音に気をつけながら、ノートに書く。 ・P126-127の片仮名表を参考に、片仮名で書く言葉の入った簡単な文を書く。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。

1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
9月	よんで たしかめよう うみの かくれんぼ 8時間（読⑧） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材（道徳） ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動（図書館活用）	1～2 3 4～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・「つぼみ」の学習で「問い」と「答え」の文があったことを思い出す。 ・P112-113の写真を見て、海にはたくさんの生き物がいることを経験や知識を基に話し合い、教材に興味をもつ。 ・「いきものがどんなかくれんぼをしているかをしらべて、ともだちに知らせよう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読む。 ・最初の「問い」で問われていることを確かめる。 3 生き物の隠れる場所と隠れる方法を確認する。 ・1文目に海の生き物とその隠れ場所、2文目に体の仕組みや機能、3文目に隠れる方法という順序で書かれていることに気づく。 ・内容や構成について気づいたことを交流し、生き物ごとに、読み取ったことをカードにまとめて確かめる。 4 P117の図鑑や科学読み物等から、他の生き物の隠れ方を調べて友達と交流する。 ・興味をもった生き物について「1なにが、どこに 2かくれるためのからだのつくり 3かくれんぼのしかた」を調べる。 ・調べて見つけたことを、順序を考えてカードに書く。 ・P112と同様の問いかけをしながら、友達と交流する。 5 学習を振り返る ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） 【態】粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。
9月	かずと かんじ 4時間（知・技②、書②） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■数え歌を書く。	1～3 4	1 教科書の数え歌をリズムカルに楽しく読む。 ・数に合わせて、子ブタの鳴き声を入れて読む。 2 数を表す漢字を練習する。 ・読み方が複数あることを知る。 3 身の回りにあるものを数えてノートに書く。 4 P120-121を参考に、折り紙、鉛筆、車などの数え歌を作って友達と読み合う。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。

令和7年国語科評価規準 第1学年

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
10月	おもいうかべながら よもう くじらぐも 8時間（知・技①、読⑦） ◎かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。	1～2 3～6 7～8	1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらぐも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ（「」）のところをどのように音読するか考える。 4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ（「」）を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる	【知・技】 ・かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
10月	まちがいを なおそう 2時間（書②） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正すことができる。（思・判・表B(1)エ） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（知・技(1)ウ） ■正しい表記で文章を書く。	1～2	1 これまでの学習を振り返る。 ・文章を読み返して間違いに気づいた経験や、日常的に文章を読み返す習慣がついているかを 2 文章の中から表記の間違いを見つけて直す。 ・P19の文章例を読み、文字の間違いを直す。 ・友達と交換し、確認し合う。 ・「は」「へ」「を」を使って文章を書き、読み直す。 ・友達と交換し、確認し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。（B(1)エ） 【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
10月	くわしく かこう しらせたいな、見せたいな 10時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■見つけたことを記録して伝える。 ☆動植物の観察記録文を書く活動（生活科） ☆知らせたい対象を端末で撮影（ICT活用）	1 2～3 4～8 9～10	1 学習の見通しをもつ。 ・P20を読み、「学校にいる生きものや、学校で見つけたものをよく見て、いえのひとにしらせる文しょうをかこう」という学習課題を確認する。 ・教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいもののことを決めて、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 2 家の人に知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 3 見つけた事柄を文章に書く。 ・P21のカードとP22の作例を比べ、見つけたことをどのように文章に表すのかを考える。 ・短冊カードを用意するなどして、見つけた事柄を一つずつ文にする。 ・カードを並べ替えながら文章の順序を考える。 ・考えた順序に沿って文章を書く。 4 文章を声に出して読み返す。 ・句読点や「は」「へ」「を」が正しく使えているか推敲する。 5 書いた文章を読んでもらう。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・知らせたいことを伝える文章を書いて、家の人に読んでもらった感想をまとめる。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。（B(1)ウ） 【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。
10月	かん字の はなし 6時間（知・技③、書③） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■漢字を使った短文を書く。	1～2 3～4 5～6	1 教科書を読み、漢字の成り立ちを知る。 ・P24-25の挿絵を見て、何を表す絵が描いてあるかを確かめる。 ・絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知 2 教材文に出ている漢字の書き方を学び、書き順や字形に気をつけて練習する。 ・絵からできている漢字の意味を考える。 ・ある事柄を示す印からできている漢字の意味を考える。 3 例文にある絵を漢字に直し、ノートに視写す	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。

1 年下卷

- 9 -

令和7年国語科評価規準 第1学年 1年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ■片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。		4 作った短文を友達と交流する。	て、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) 【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとして
11月	ともだちと はなして、おはなしを かこう どんな おはなしが できるかな 6時間(話・聞②、書④) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 (思・判・表A(1)オ) ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ■友達と話したことを基にして物語を作る。	1 2～3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・「どうぶつになったつもりでともだちとはなして、おはなしをつくろう」という学習課題を 2 P40～41の挿絵を参考に、登場人物を決める。 3 友達と役割を決めて、動物になったつもりで話をする。 ・友達と話したことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話聞くときに気をつけることを確認する。 4 友達と話したことを基に、お話を考えて文にする。 ・P42を参考に、友達と話したことを会話の形にする。 5 書いたお話を読み合い、感想を交流する。 ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。
11月 ～ 12月	すきな ところを 見つけよう たぬきの 糸車 8時間(読⑧) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 (思・判・表C(1)オ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 (知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (思・判・表C(1)エ) ■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。	1 2～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて好きなところを見つけ、文章に線を引き。 ・挿絵を手がかりに、内容の大体を捉える。 ・「すきなところとそのりゆうをみんなにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 場面ごとに様子を思い浮かべる。 ・「たぬき」や「おかみさん」と同じ動作を試みる。 ・「たぬき」のしたことを確かめ、そのときの様子を思い浮かべる。 ・「おかみさん」の気持ちを想像する。 3 好きなところとそのわけを友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。
12月	日づけと よう日 3時間(知・技①、書②) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■唱歌を作る。	1 2 3	1 日付歌を唱える。 ・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。 2 曜日歌を唱える。 ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。 3 自分の日付歌、曜日歌を作る。	【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱歌を作ろうとして
12月	てがみを かこう てがみで しらせよう 6時間(書⑥) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。 (知・技(1)キ) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との関係に気づいたり、内容をよく理解したりすることができる。	1 2	1 学習の見通しをもつ。 ・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみにかいてしらせよう」といって、自分の気持ちを伝える。 2 誰にどんなことを知らせたいか考える。 ・相手と書く題材を決め、必要な事柄を集め、	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き

令和7年国語科評価規準 第1学年

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■伝えたいことを手紙に書く。 ☆お世話になった人に手紙を書く活動(生活科)	3～5 6	3 手紙を書く。 ・P58-59の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書く練習をする。 ・読み返して、書くときに気をつけることを意識して書いているかを確かめる。 ・自分がいちばん知らせたい相手に手紙を書く。 4 学習の振り返りをする。 ・手紙を書いた感想を交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) 【態】書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。
12月	本は ともだち むかしばなしを よもう おかゆの おなべ 8時間(書④、読④) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■昔話を読み、感想を伝え合う。 ☆いろいろな昔話を選んで読む活動(図書館活用)	1～2 3～5 6～8	1 学習の見通しをもつ。 ・知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 ・P60-61を見て、「いろいろなむかしばなしをよんで、ともだちに知らせよう」という学習課題をカードの書き方を学習する。 ・「おかゆの おなべ」を読む。 ・お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・P73を参考にカードの書き方を確認する。 2 カードの書き方を学習する。 ・「おかゆの おなべ」を読む。 ・お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・P73を参考にカードの書き方を確認する。 3 読みたい昔話を選んで読み、カードを書く。 ・カードの書き方を再度確かめる。 4 友達のカードを読んで感想を伝え合う。 ・カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 5 学習を振り返る。 ・昔話を読んで紹介カードを交流し合った学習から、学んだことや感じたことを振り返る。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。
1月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 なりきって よもう 2時間(読②) ◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ☆お気に入りの詩を見つける活動(図書館活用) ☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流(ICT活用)	1～2	1 作者(かたつむり、にじ)の気持ちを想像しながら詩を音読する。 ・読む速度を変えたり、動作化したりして、いろいろな読み方を楽しむ。 2 詩集などからお気に入りの詩を選び、音読する。 ・声に出して詩集を読んだり、友達と気に入った詩を交流する。 3 学習を振り返る。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	くわしく きこう 2時間(話・聞②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■紹介を聞いて、質疑応答する。 ☆紹介したい本を選ぶ活動(図書館活用) ☆話し練習を動画で撮影(ICT活用)	1～2	1 自分の好きな本を友達に紹介する。 ・教師の本の紹介を聞き、これからの学習に見通しをもつ。 ・どの本を友達に紹介するか決める。 ・知りたいことを考えながら聞き、もっと知りたいことを質問する。 2 学習を振り返る。 ・本を紹介し合う活動の振り返りをし、これからも友達と好きなものを紹介し合って、友達のことをもっとよく知っていくように促す。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に友達の話の聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。
	ことばで あそぼう 2時間(知・技②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	1～2	1 言葉遊びの仕組みを理解する。 ・P78-79を見て、言葉遊びのしかたを理解し、ノートに書く。 2 言葉遊びを楽しむ。 ・教科書を参考に自分で言葉遊びのルールを決め、言葉遊びの問題を作る。 3 問題を出し合う。 ・問題を出し合うことでさまざまなルールの言葉遊びを知り、継続して言葉遊びを続ける意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。
1月	くらべて よもう			

1 年下卷

- 12 -

令和7年国語科評価規準 第1学年

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
2月	ことばあそびをつくろう 6時間（知・技①、書⑤） ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■言葉遊びを作る。	1 2 3～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなできあおう」という学習課題を理解する。 2 P100-101の□にあてはまる言葉を考える。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つける。 3 「ことばクイズ」を作る。 ・（ ）の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。 4 クイズ大会をする。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】身近なことを表す語句に積極的に関心を持ち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
2月	ふたりで かんがえよう これは、なんでしょう 4時間（話・聞④） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■二人で相談し、考えをまとめる。	1 2～3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・「ふたりでmondaiをかんがえて、クイズたいていしよう」という学習課題を確認する。 2 二人組を作り、クイズの問題を考える。 ・問題にするものを決める。 ・決めたものの特徴（色や形、働き、様子など）をノートに書き出す。 3 問題の出し方を話し合う。 ・動画を見て問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。 4 「これは、なんでしょう」クイズ大会をする。 ・二人組で出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方について感想を伝える。 5 学習を振り返る。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことを大切か、気づいたことを出し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「ふりかえろう」で身に付けた力を振り返る。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） 【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。
2月 3月	よんで かんじた ことを はなそう ずうっと、ずうっと、大すぎだよ 8時間（読⑧） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材（道徳）	1 2 3～4 5～7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・家でペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらおう。 ・「おはなしをよんでかんじたことをはなそう」という学習課題を確認する。 2 お話を読んで思ったことを話す。 ・教師の範読を聞いて、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったことを出し合う。 ・出し合った感想をもとに、みんなで話し合い、感想を共有する。 3 お話の筋を押さえる。 ・「エルフ」がどんなふうにならなかっていったか確かめる。 ・「ぼく」が、「エルフ」のことが大好きだと分かるところを見つける。 4 学習計画に沿って話し合う。 ・2で決めた話し合いのたいことについて、考えを出し合う。 ・「ぼく」が、なぜ「となりの子」から子犬をもらわなかったのかを、自分に引きつけて考える。 ・このお話を読んで、最も心に残ったことを友達に話す。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】友達のかえや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
3月	にて いる かん字 3時間（知・技②、書①） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表R(1)ウ）	1 2	1 似ているところに気をつけて漢字を書く。 ・P120の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。 2 書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】進んで漢字の形に注意し、

令和7年国語科評価規準 第1学年
1年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	■似ている漢字を使って文を書く。	3	3 漢字を使って文を作る。	【思・判・表】これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。
3月	おもい出して かこう いい こと いっぱい、一年生 10時間（書⑩） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材（道徳） ☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照（ICT活用）	1 2 3 4～8 9～10	1 学習の見直しをもつ。 ・写真やアルバムを見ながら1年間を振り返り、心に残っていることを話し合う。 ・教材文を読み、学習の手順を知る。 ・「おもいだして、『1年生のおもいで』をかこう」という学習課題を確認する。 2 1年間の出来事を振り返る。 ・P123を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・写真を見たり、家の人に聞いたりする。 3 書きたい事柄を選ぶ。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容を集めてメモを作る。 4 メモを基に、文章を書く。 ・P124の作例を読み、書き方を考える。 ・順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。 5 推敲する。 ・句読点や文字の間違いを見直す。 ・内容の分かりにくいところはないか、読み直 6 書いたものをまとめて冊子を作る。 ・時間順に並べるなど、構成を工夫する。 7 冊子を読み合う。 ・友達の違いについての感想や、書き方のよかったところを伝え合う。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえ 9 1年間の学習を振り返り、頑張ったことを思い出してP136の表彰状に書く。 ・1年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ） 【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。